

萩 ネットワーク

第 55 号 2004 年 1 月

発行：萩ネットワーク協会

〒758-8555 山口県萩市大字江向 510 萩市役所広報課内

TEL 0838-25-3178 FAX 0838-26-5458

萩ポータルサイト「萩・情報の駅」

<http://www.city.hagi.yamaguchi.jp/portal/>

慶長9年(1604)毛利氏が安芸の国から萩の地に移封され、萩を開府してから今年2004年で400年の節目の年となります。この記念すべき萩開府400年に合わせ、開府記念日である平成16年11月11日の新博物館の開館や北の総門をはじめ多くの文化財の復元・修復等の記念事業の準備を進めています。

10月30日から11月21日の間、萩開府400年特別月間として次のイベント・行事を予定しています。

○萩往還1,000人ウォーク、(11/6、7) ○毛利輝元公銅像除幕式(11/10)、○新博物館開館式(11/11)、○時代絵巻「萩時代パレード」(11/14)、○萩・城下町サミット(11/21)、○陶芸展(仮称)(10/30～11/28) 県立萩美術館・浦上記念館、○「毛利輝元と萩開府」展(11/11～12/10) 萩博物館

※写真は平安古大名行列の草履舞(菊屋家住宅前)

2004年は

萩開府400年



冬～春のイベント	P2
新博物館の竣工式、大名行列が江戸天下祭へ	P3
萩市の重大ニュース	P3
インタビュー [三村夏彦]	P4
ズームアップ [宮崎優子]	P5
「萩ものがたり」、萩の伝統産業 [シロサバフグ]	P6
萩ガラス工房、萩発旬の味便り [萩のあかむつ]	P7
萩と会津を語る会、全国離島振興協議会	P8
同窓会だより、メールボックス(会員便り)	P9

目次

市町村の合併の動き	P10
萩国際大学学生募集、新理事長、	P10
萩工業ラグビー全国大会出場、萩高生角界入り	P11
「外食産業モデル店」萩の宿 常茂恵	P11
夢追人 [篠原充]	P12
インタビュー [金子信彦]	P13
日本陶磁協会萩支部の発足、美術館だより	P13
情報アラカルト、市民病院職員募集	P14～15
大野毛利家と屋敷地の変遷(2)	P16

11月27日に開花宣言 笠山椿群生林

早くも見頃を迎えます

昨年よりも1か月はやく11月27日に、笠山椿群生林の開花宣言を行いました。開花期間中の2月21日から3月21日まで恒例の萩・椿まつりです。萩が全国に誇れる椿の開花期間の3月下旬までの間、萩に帰る機会はまだまだ多いはず。椿を見るためだけに萩に帰省する計画もいいかもしれません。

11月に開花宣言

笠山椿群生林では、昨年夏涼しく、秋になって暖かい日が続いたため、開花が促進され、昨年よりも1か月早く11月27日に開花宣言を行いました。最盛期は2月から3月に迎えますが、この冬の暖かさもあって、多くの椿見の観光客が散策に訪れています。

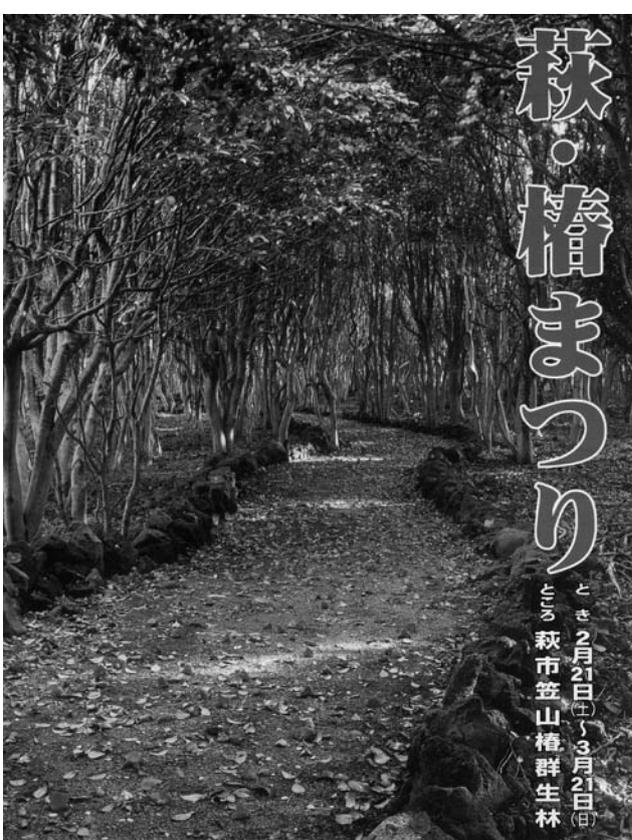
萩・椿まつり

椿が一番の見頃を迎える2月中旬から3月下旬まで、笠山椿群生林で開催されます。

とき 2月21日(土)～3月21日(祝) 午前10時～午後4時

ところ 萩市笠山椿群生林

内容 郷土芸能披露、抹茶席、椿の苗木販売



萩・椿まつり

とき 2月21日(土)～3月21日(祝)
ところ 萩市笠山椿群生林



椿見どころ案内人の案内

椿見どころ案内人

椿の開花期間中に群生林を訪れる方々に、萩の椿と自然・文化をより深く理解していただくために、「椿見どころ案内人」が群生林内をご案内します。

○椿の開花期間中

萩観光ボランティア協会
(0838・25・3527) で申込み(予約制 交通費1000円のみ必要)

○萩・椿まつり期間中(2月21日～3月21日)の土・日曜日、祝日
まつり会場にて受付(無料)
問い合わせ 萩市観光課
(0838・25・3130)

新年のごあいさつ

萩ネットワーク協会会長

萩市長 野村興兒



旧年は歴史の大きな年であり、国内外で多事多難な1年でした。経済の状況は、地方では依然として厳しさが続いておりますが、都市部では少しずつ明るい展望が開きつつあるとも言われております。今年こそは、明るく平穏な年でありますようにと願っています。

21世紀を見据えた市町村合併

合併により萩市と阿武郡の3町4村、8つの市町村の壁が取り払われることによって、今まで難しいとされた新たな広域的な施策やサービスが可能となり、併せて施策などの高度化と多様化を図ることが可能となるなど、21世紀を見据えた行財政の基盤づくりが行われることとなります。昨年2月に始まった萩広域市町村合併協議は、既に15回の協議会の審議を経て、協定項目43のうち、8割以上の確認を行っています。

本年は秋開府400年

慶長9年(1604)毛利輝元公が安芸の国からこの萩の地に移封され、本年は400年の節目の年となります。開府の記念日である11月11日の萩博物館の開館をはじめ、萩城外堀、北の総門など多くの文化財の復元・修復等の記念事業を計画しております。

萩には毛利藩政期260年間に形成された城下町のたたずまいが都市遺産となっており、今日まで継承され、「江戸時代の地図がそのまま使えるまち」となっています。さらに、その傍らで、近世そのままの空間が市民によって住みこなされ、いたる所に息づいていることこそ、優れた「都市遺産」であると言えます。「萩まちじゅう博物館」は、まち全体を博物館としてとらえ、世界的遺産である萩の近世都市遺産を保存・活用しようとするもので、今後のまちづくりの基本構想となるものです。

このような萩にしかない宝物を大事にし、萩を訪れる多くの観光客に萩の良さや歴史を誇りを持って語り伝え、まちじゅう博物館を基軸とした観光戦略を考えてまいります。

末尾になりましたが、会員の皆様のご多幸をお祈り申し上げます。本年のご挨拶といたします。

萩市の重大ニュース

▲法定合併協議会を設置（2月）

萩市と阿武郡3町4村で「萩広域合併協議会」を設置。合併の方式（新設合併）、期日（平成17年3月6日）、新市の名称（萩市）、事務所の位置（現在の萩市役所）の基本4項目などを決定。

▲高杉晋作の遺品が萩市に寄託（3月）
東行記念館（下関市）で展示されていた高杉家所有の晋作関連史料約270点を、晋作のひ孫の高杉勝氏（東京都）が萩市に寄託。来年開館の新博物館で常設展示。

▲萩開府400年記念事業決定（7月）

来年の萩開府400年を控え、新博物館の開館など22の記念事業とシンボルマークを決定。イベントとして、8月に萩陶芸大リーグ、11月に萩・大名行列の江戸天下祭派遣など5事業を実施。



萩開府400年記念シンボルマーク

▲新川雨水ポンプ場の竣工（7月）

集中豪雨対策として平成12年度から整備を始め、今年5月にはポンプ稼動開始。治水対策の切り札に。

▲河村建夫代議士、文部科学大臣就任（9月）

第2次小泉内閣で、河村建夫衆議院議員が文部科学大臣に就任。萩市からの入閣は昭和55年（1980）年の田中龍夫氏が鈴木内閣で文部大臣になって以来23年ぶり。

▲萩まちじゅう博物館構想を決定（10月）

まち全体を博物館としてとらえ、世界的遺産である萩の近世都市遺産を保存・活用しようとするもので、今後の萩市のまちづくりの指針となるもの。

▲新博物館の竣工（11月）

昨年7月から建築工事を始め、長屋門、隅矢倉に続き本館棟が完成。全国公募した名称は「萩博物館」、愛称は「萩博（はぎはく）」に決定。今後は展示・外構工事をし、萩開府400年を記念して来年11月11日に開館。萩まちじゅう博物館構想の中核的施設の役割を担う。



新博物館竣工

全国公募により決定！

名称 「萩博物館」

愛称 「萩博（はぎはく）」

平成14年7月から建築工事を開始した新博物館は、昨春の長屋門、隅矢倉、長屋の完成に続き博物館本館棟が9月末に完成し、全ての建物が竣工したことに伴い、11月10日に新博物館の竣工式を行いました。

野村萩市長は「新博物館をぜひ萩の観光情報発信の拠点にしたい」とあいさつを述べ、新しく決まった名称・愛称の応募者の方に記念品の授与を行いました。募集していた新博物館の名称・愛称は全国から196通の応募があり、審査の結果、名称が「萩博物館」、愛称が「萩博（はぎはく）」と決定しました。



出席した名称・愛称の応募者

名称 「萩博物館」
応募者 末武美都子、井町薫枝、末武崇広（以上萩市越ヶ浜）、熊谷幸平（若手県）、池永一広（大阪府）、中村湧郎（阿知須町）
愛称 「萩博（はぎはく）」
応募者 池永一広（大阪府）、中村湧郎（阿知須町）

萩・大名行列が

「江戸天下祭」

（東京）に参加

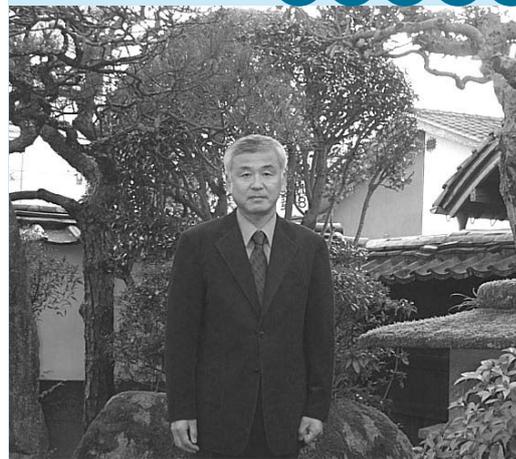
11月24日、江戸開府400年を記念して開催された千代田区「江戸天下祭」に、萩の大名行列・平安古備組88人が参加しました。「天下祭」とは、江戸城内に山車を引き入れ、將軍家が上覧していた大祭で、山王祭と神田祭が1年交代で行われていました。明治以降、近代化の波とともに姿を消しましたが、今年の江戸開府400年を記念して復活しました。

平安古備組は、東京・日比谷から丸の内まで約1kmを「イーサーヨ1シ」の勇ましい掛け声とともに、山車やみこしを中心とする6000人の行列の最後を堂々と練り歩きました。道中の要所では、長州一本槍や草履舞の披露も行わ

れ、沿道を埋めた約30万人の観客からは盛んな拍手や歓声があがっていました。

萩の大名行列が東京で披露されるのは今回が初めて。勇壮な時代絵巻によって多くの観客を酔わせるとともに、来年の「萩開府400年」を全国に向け発信しました。





▲萩市川島にある生家の庭にて

(有)堀設計事務所 代表取締役

三村夏彦 氏 (50歳)

(萩市平安古在住)

阿武川の山林だけで、実に一年間に一万戸分の木材が供給可能です。地元付近にある木材を有効に利用していくことが重要だと考えます。



▶構造材や壁材に多くの地元産木材を使用した道の駅・萩しーまーと



▶木材の持つ特性を強く意識した阿武町立宇田小学校（多目的ホール）

萩市民館に感動！

建築の道に進むようになったきっかけは、もともと父親が設計事務所を経営、小さな頃からその後姿を覗いて育ったという環境もありますが、丁度、中学を卒業し高校に入学したころに完成した今の萩市民館の建物を見た時のインパクトが、自分の人生を左右したように思います。その建物は、今までに体感したことのない空間でした。

萩高を卒業後、東海大学工学部建築学科に学び、そして入社した設計会社で、その萩市民館を設計した菊竹清訓氏が主宰する建築設計会社、(株)菊竹清訓建築設計事務所。これまで数多くのビッグプロジェクトを手掛けてきた日本有数の設計事務所、あこがれの設計事務所就職することができた訳です。当時の同僚には、今をときめく建築家の内藤廣氏や大江匠氏がおり、それこそ第一線級の建築家と一緒に仕事をし、そして時には酒を酌み交わしたり、マジシャンをしたりと、仕事自体は厳しかったものの、大変恵まれた環境で修行することができました。同社に5年間の勤務のあと、昭和56年に萩に戻り、父親の設計事務所勤務、平成4年に代表となりました。

木材の可能性に着目

これまでに、いろいろな建築設計に携わってきたのですが、平成10年の「阿武町立宇田小学校」の設計以来、人に優しく五感に響く空間を作りたいという想いが強く、特に木材の持つ可能性に着目しています。木造は、もともと日本人が持つDNAともいえるので、精神的な安らぎを感じさせ、日本人の感性や日本の気候風土に馴染んだ建築素材だと思います。また、構造的にも強く、また素材そのものに表情があることも大きな魅力です。もちろんコンクリートや鉄にもそれぞれの良さがあり、木材の良さそれらよりうまく組み合わせ活かし、より良質な空間を構成できるように工夫をこらしてきました。平成11年の阿武町奈古保育園、平成12年の平わらび台活性化交流施設、平成13年の道の駅・萩しーまーとなど、木造の良さを活かした建築設計を続けてきています。

「地材地建」

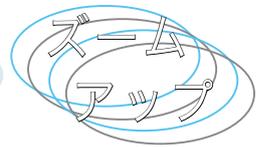
大きな可能性を持つ木材ですが、阿武川流域の山林だけで、一年に成長する木材の量は、26万m³と言われています。普通の小規模住宅に使用する木材の量が約26m³

としますと、実に一年間に一万戸分の木材が供給可能です。しかし、安い輸入材や新建材などに押されて、実際使用されている地元産の木材量はその20%程度、需要が少ないため、放置された山林が増え、そして山が次第に荒れていく、場合によっては土石流などの災害にもつながる、今、そんな悪循環が起こっています。萩は歴史文化の街、そして市内に3か所も伝統的建築物保存地区を持つ街ですが、現在萩市内で新築される個人住宅の約6割位がプレハブといわれており、実は全国でもトップクラスだそうです。木材の持つ良さをしっかりと認識し、地元付近にある木材を有効に利用していくことが重要だと考えます。いわば「地材地建」、地元の木材を使って、地元の建築会社で建てるという意味ですが、環境保全や経済活性化の観点からも、非常に重要なキーワードだと思っています。(談)

◆プロフィール

昭和28年 萩市川島生まれ 萩高を経て東海大学工学部建築学科卒業。(株)菊竹清訓建築設計事務所入社 昭和56年に萩に戻り、(有)堀設計事務所入社 現在同社代表取締役を務める傍ら、萩市都市景観審議委員会の会長職など、公務でも活躍。

※連載中の「萩 400年の物語」(北村知紀)は筆者の都合により、当分の間休載します。



(株) タイムオフィス代表取締役

宮崎優子 氏

(千葉県浦安市在住)

日本とフランスの文化の掛け橋になるような
コンサートを作ることを目指しています。



私の近況

毎年12月は仕事から移動が多く一番忙しい月なのですが、今年は幸いにも、クリスマススクールという泊2日の客船クルーズに乗り、各地でコンサートを行うこととなり、8日から25日まで日本丸という客船に乗ったまま移動してきます。その客船の中でこうして原稿を書く時間をとることができ

ました。今回のクリスマススクールでのメインイベントは歌手で女優の岩崎良美さん、シャンソン歌手でアコーディオン奏者のパトリック・ヌジエ(私の主人)、ヴォーカリストでベーシストのドミニク・シャニオン(NHKフランス語会話出演中)の3人によるコンサートです。東京、日立、横浜、清水、名古屋、神戸の各港でお客さまを乗せて、クリスマスディナ

ーショーと一泊2日のクルーズを楽しんでいただき港に戻ってきます。2年前には世界一周クルーズでのコンサートも制作しました。私は秋の海のそばで育ったのに船の揺れはとても苦手なのですが、船から海に沈む夕日を見ると不思議と元気になってくるのです。

現在、私の事務所ではフランスの音楽を中心にしたコンサート、ディナーショー、イベント等を制作しています。フランスと日本の文化の掛け橋になるようなコンサートを制作することを目指しています。

今年4月23日に東京大井町のぎゅりあんホールでシャンソンとフレンチポップスのコンサートにフランス風コントや漫才を織り混ぜた初めての試みのコンサートをを行います。その他のコンサートではクロード・チャリさんや長谷川きよしさんをゲストに迎えたコンサートやパリ祭コンサート等、様々なコンサート活動をしています。

また、CM音楽の制作、映像音楽の制作、レコードの制作なども手掛けています。2003年7月にはドミニクのアルバムが、11月にはアナンダ(フランス人の女の子)のアルバムを制作し発売になりました。1月には沖縄で歌い次がれた子守唄を音楽事務所所属している主人とドミニク・シャニ

オンがアレンジし、アコーディオンと三弦が中心のCDを制作し、3月に日本コロンビアより発売される予定です。

もうひとつ、フランス語でシャンソンを歌う教室を東京青山にあるフランス語の学校内で始めて3年がたちました。今年は目黒のシヤンソンスクール内でも始めることになりました。

萩の思い出

町中が夏ミカンの花の香りに包まれる5月の萩、菊ヶ浜の真っ赤な夕焼け、城跡の桜とおだやかな菊が浜の海。子供のころから毎日の生活の中でなげなく見過ごしていた事が、萩を離れてからどんどん鮮明に思い出されます。仕事で5年間を海外で暮らしていた時、5年目の年になぜか指月中、萩高と歩いて通っていた通学路の夢を映画のように何度も見ていました。

明倫小学校6年生の時に仲良い3人組が4人組かで堀内から笠山まで、初めて自転車で行った事、中学生の時に市民館のレコードコンサートへよく通ったことなどが懐かしい思い出です。

萩への一言

萩のようにすばらしい自然と歴史を兼ね備えた町もそう多くはないと思います。いつまでも萩の風

景や武家屋敷のたたずまいを残してほしいと願っています。

私の主人の育った町はフランスのバリから60kmにある森に囲まれたお城のある町でフォンテンヌブローというところです。日本からもたくさん観光客が訪ねてくる町です。そこには古い教会がいくつあるのですが、新しい家を建てる時はその教会と同じ色を使わなくてはならないので、申請をして建築許可をもらうのに時間がかかり、とても大変なのですが、町の景観をととても大切にしています。

日本ではコンサートの為いろいろな町に行きます。長野県松本市の町の景観に対する努力はすばらしいと思いました。広告塔やゲームセンター、パチンコ店等の外観など町の景観に影響を与えるものあり方を工夫して、どこの町よりも美しい萩の町であってほしいと思います。

プロフィール

●プロフィール
昭和48年秋高校卒(25期)
パリソルボンヌ大学語学コース中級卒、(株)クラブメッド入社
1990年にフランス人音楽家の主人と(株)タイムオフィス設立
フランスの音楽を軸にレコード制作、コンサート、イベントの制作、アーティストマネージメントなどに携わり現在に至る

シリーズ
「萩ものがたり」



この4月に出版スタート!!

2004年は

萩開府400年。

この記念すべき年を目前に、去る12月18日、出版社「中間法人・萩ものがたり」が設立されました。萩に残る、厚みのある歴史文化・人物、豊かな自然、多彩な行事や風物、民間伝承、伝統産業、などなど、後世に語り継ぐべき萩の財産を、シリーズ「萩ものがたり」として、手軽なブックレットスタイルで出版。1年で4タイトル、合計100タイトルのシリーズ出版を計画しています。仕様はA5サイズで、50〜80ページ、販売価格はそのボリュームによって一冊500円〜800円を予定しています。

◎萩ネットワーク会員の皆様には、会員優待条件（年間4タイトルの販売定価合計約2400円程度のところを2000円で定期配本）で、定期購読の予約を承っております。詳しくは同封の案内申込みハガキをご参照ください。

萩の伝統産業

シロサバフグ

NHK総合テレビ「ひんぎ日本列島」で萩産「シロサバフグ」が紹介されました。

11月17日、お昼の人気番組「NHKひるどき日本列島」で、萩産・秋の味覚シロサバフグが全国生中継で紹介されました。萩沖の見島近海で漁獲されるシロサバフグ、萩の方には「カナトフグ」もしくは「カナフグ」の名前のほうが馴染み。秋が深まり紅葉が色づく頃から年末にかけて旬を迎えます。フグの王者、トラフグに較べると、味や食感では

かなわないものの、価格が1/10以下、とお手頃で、庶民のフグと呼ばれる所以です。薄造り・タタキ・唐揚・鍋といろいろな料理法で楽しめ、またシロサバフグを丸干にした「干しふぐ」は、萩地方のおせち料理の定番として欠かせない食材となっています。そんなシロサバフグを主役に、23分間の生中継をダイジェストしてみました。



▲主役のシロサバフグ

萩漁港・魚市場に隣接した道の駅「萩シーマート」から中継。NHKの宮崎アナウンサーと西堀アナウンサー、二人のガイドで本日の主役「シロサバフグ」を紹介。シロサバフグは無毒で価格が安いのが特徴、まさに庶民のフグ。

▼シロサバフグの刺身

調理室で次々にミガキ（頭・内臓・皮を除去した状態）にさばかれる様子を紹介。宮崎アナが、さばいたばかりのシロサバフグの刺身を試食して「絶句」。トラフグより身が柔らかいため、厚めの刺身にしたり、表面を軽く炙ってタタキします。



▲新鮮さの証し「びた」シール

売場に並ぶシロサバフグ。貼られている「びた」のシールは新鮮さの証。漁師言葉で「びた」は活魚のこと。漁船のイクスで活かしたまま帰港、水揚げの直前に1尾ずつ活きぬしたフグにしか貼られていません。



▲珍味「干しふぐ」

店内を歩きながら宮崎アナが見つけた「干しフグ」シロサバフグを丸ごと開いて干物にした加工品で、棒鱈のように水で戻した後、調味して食べます。萩地方のお正月になくてはならない食材で、干しフグを食べて、一年の福（ふく）を呼び込むとか。



▶フグはえ縄の漁具

魚市場岸壁に横付けしたフグ延縄漁船で。この道40年余の現役漁師・山本さん（越ヶ浜在住）が登場。延縄漁具やエサ、フグ用の特殊な針などを紹介しながら、漁の様子を語る。ぜひ、このフグを全国の皆さんに味わってもらいたいと。



阿武町福賀の埋もれ木と

萩ガラスの合作、次々と発売へ

高齢者の生きがい対策の一環として地域づくりに貢献することを目的に、阿武町福賀地区の埋もれ木や地元材を活用した商品開発を行う福賀木目会では、萩ガラス工房に逆三角形のガラスを製作してもらい、それを置くための専用コースターを制作しました。

ガラスとコースターをセットにし、1月から萩ガラス工房と阿武町道の駅で販売する(1セット7000円、取っ手付きガラスは8000円)。



左が取って付きガラスとコースターのセット、右が見島牛角盃と専用台

この他にも、「見島牛 角盃」を置くための専用台も制作した。

見島牛角盃は見島での見島牛共進会で最優秀賞を受賞したこともある、多田一馬さん所有の「みやこどり号」の角から型取りをし、「国指定史跡・見島シーコンボ古墳群」に使用されているものと同じ見島の玄武岩だけで制作された、こだわりの逸品。一輪挿しとしても使用でき、萩ガラス工房で販売される予定です。

いずれも使用されている材木は、800年前に東大寺(奈良)を再建したときに使われた、阿武町福賀地区の檜・杉の埋もれ木から制作されている。

萩ガラス工房社長・藤田洪太郎さんは「この商品は、これがなければガラスとして使用できない、専用のコースターというのがアイデアとして面白い。これからはガラス単品ではなく、ガラスと異業種とのコラボレーション。今後は、コースターの種類を増やし、価格も安くしていきたい」と意気込みを語った。

問い合わせ 萩ガラス工房(萩市越ヶ浜) 0838・26・2555(へ)

萩発 旬の味便り

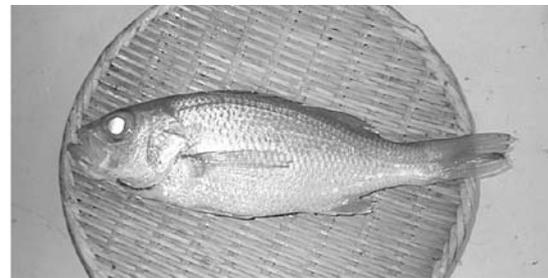
萩のあかむつ



▲「あかむつ」の開き干しも冬場の人気商品



▲調理が簡単で美味しい「あかむつのホイル焼き」



■山陰日本海の冬の旬魚

今回は「あかむつ」の登場です。山陰西部が主要な漁場で、主に底引き網で漁獲されます。年中脂の乗りが良い魚種ですが、特に冬の時期に脂の乗りが最高となり、旬を迎えます。萩地方では「のどくる」と呼ばれ、口腔内(口の奥の喉の付近)が黒いことがその呼び名の所以です。脂の良く乗った白身のお魚で、その味の良さは、北海道で有名な高級魚「キンキ」に良く似ています。価格もあまり安いとは言えない魚種で、特に30cmを超える大型は希少価値もあつてちよつと手が届かない価格となることもあります。

■上質な白身プラス脂の旨み

上品な白身に、あかむつ独特の脂の旨みがあつて、非常に人気の高いお魚です。大型のものはお刺身が一番。あつさりとした塩焼きや、薄口の味付けをした煮付けも定番人気。身が柔らかいお魚なので、小型のものは一夜干して召し上がる。身がしっかりと、旨みも凝縮されます。あかむつの一夜干は保存も利き、御土産商品としても人気があります。

■お薦めは「ホイル焼き」

ウロコと内臓・エラを除去したあかむつに三筋ほど包丁で軽く切れ目をいれます。エリンギやニンジンなどお好みの野菜を添えて、ハーブソルト・少量のバター・白ワインを加えて調理用のアルミホイルに包みます。そのままトースターで約10分焼けば出来上がり。仕上げにレモンを絞って頂きます。簡単に調理でき、しかもお魚が苦手といった方や、お子様にも「あかむつ」の美味しさを楽しんでもいただける調理法です。

※お知らせ

NHK総合テレビ(山口放送局) 毎週水曜11:30の番組「とくもり情報ランチ」で、「萩の旬のお魚情報」を毎週放映中です。

市町村合併の動き

合併の期日は、平成17年3月6日に決定

10月28日の第12回萩広域市町村合併協議会（法定合併協議会）で、合併の期日は平成17年（2005年）3月6日（日）とすることが確認されました。

また、合併協議会で行われている合併協定項目の協議と並行して作成中の新市建設計画については、近くその素案が合併協議会へ提出される予定であり、市民の皆さんに対しては1月から2月にかけて、その地区別説明会が開催されることとなりました。

なお、山口県全域で市町村合併への動きが進んでおり、現在の法定合併協議会などの枠組みで合併が実現した場合、平成15年3月に56あった市町村数は、16になります。



同窓会だより

東京での三見中学校同窓会

宮本宗史（昭和41年度三見中卒、44年秋工業卒）

1997年から東京近郊在住の三見中学校卒業生で同窓会を行っています。今年は第6回目で末益先生をお招きし、9月21日、東京の池袋で23人が集まりました。衆議院議員の河村建夫さんも同窓生です。

久しぶりの口ーカルでなつかしい話題にとても盛り上がりました。この同窓会の翌日、河村建夫さんが「文部科学大臣」に就任され、とても思い出に残る同窓会となりました。

現在、同窓会は2年に1度行っています。幹事は昭和35年度卒の坪井（旧姓福田）良子さんです。



「萩国際大学」学生募集

■平成16年度新入学生選抜日程（国際・経営情報学科共通）

入試区分	選抜方法	出願期間	試験日
推薦選抜	一般推薦 小論文、面接、書類選考	3月1日～3月25日	3月28日(日)
一般選抜	前期日程 学科試験、書類選考	1月8日～1月30日	2月8日(日)
		2月2日～2月20日	2月29日(日)
	後期日程 小論文、面接、書類選考	3月1日～3月17日	3月21日(日)
		3月18日～3月31日	4月3日(土)
大学センター試験を利用する選抜	前期日程 学科試験、書類選考 ※萩国際大学の個別学力検査等は無し	1月12日～2月6日	
	後期日程	3月24日～3月31日	

■「萩陶芸文化コース」の教授陣に地元の萩焼作家3人が就任

大学では、教育システムの全面的な見直しを行い、来年度から「ゴルフ文化コース」、「萩陶芸文化コース」など4コースを新設、従来のものと併せて9コースに再編しました。「ゴルフ文化コース」には9月の男子プロゴルフツアーで優勝した倉本昌弘プロが客員教授に就任、「萩陶芸文化コース」には次の3人の現役萩焼作家が就任しました。

□兼田昌尚専任教授 窯元「天龍窯」（小畑）、□金子信彦客員教授 窯元「城山窯」（堀内）、□松野龍司客員教授 窯元「緑栄窯」（大屋）

なお、昨年開催された萩陶芸大リーグ参加者の1人が「萩陶芸文化コース」に合格、4月に入学する予定です。

■新理事長就任



刀襦勇新理事長

大学を経営する学校法人萩学園の権堂義幸理事長が、健康上の理由から11月11日付けで退任、後任に大学の理事で萩商工会議所会頭の刀襦勇氏が就任しました。大学の理事会体制も地元の経済人が理事に就任するなど、今後は地元主導で会議が行われます。

11月13日に行われた記者会見で、刀襦勇新理事長は「県、市の参画や文部科学省の指導を仰ぎながら、大学存続に向け抜本的な再建を行って行きたい」と意欲を語りました。

大学案内、出願書類等の請求は、〒758-8585 萩市椿東浦田5000番地 萩国際大学学務課（0838・24・4000）へ

からたち会関東支部総会

11月15日

シャトー51 (新宿区)

35人出席。支部長の波田直登さん(昭和41年卒)から「近年卒業生が関東方面へ就職しなくなったこと、交通網の発達によって故郷への郷愁感が少なくなったこと等により、同窓会への出席者が少なくなったが、集まりが設定されていることに意義があるし今後も継続したい」と挨拶。波多野篤さん(43年卒)が「男なら」の替え歌で、氏が故郷萩を離れる時に父親が萩のことを忘れるなちゅうて教えてくれた「故郷萩を想う唄」を全員で合唱。宮木宗史さん(44年卒)は三見中学校同窓会の情報を(8ページ掲載)。波田辰巳さん(46年卒)は、総会翌日(11月16日)の東京女子マラソンに併せた市民マラソン大会に参加するとの情報。その結果は・・・。

事務局は 桂木 忠さん(40年卒) 048-259-2790 (山城精機製作所)



同窓会翌日にフルマラソンに挑戦した波田辰巳さん(左)

たちばな会からたち会合同総会

11月29日

南風泊市場活魚センター(下関市)

45人出席。総会では、松村久たちはばな会下関支部長の挨拶に続き、渡邊萩商教頭による近況報告があり、1クラス35人に減少したこと、ホームページによる学校紹介が始まったこと等が報告されました。懇親会では、下関唐戸魚市場の提供による毎年恒例のふく鍋とふくさしに加え、今年からふくのにぎり寿司も登場し、出席者は多くのフルコースを満喫していました。

また、元萩商野球部監督の瀬上進さんが萩市から出席し、病床から回復したことを報告するとともに、会の最後には万歳三唱の首頭をとり、会場は大いに盛り上がりました。

事務局は中谷満正090-5081-8545



元萩商野球部監督の瀬上進さん

たちばな会関東支部総会

11月28日

はあといん乃木坂(港区)

30人出席。会長の林口是信さん(昭和33年卒)から「平成5年から今年まで10年間会長を務めたので、次期会長に36年卒の大賀進さんにお願したい」と挨拶。また、平成2年から14年間事務局を務められたバルタック勤務の守永雅さん(42年卒)が大阪に転勤になったので、次は36年卒の楊井さんをお願いするとの報告があった。たちばな会理事長の川原輝彦さんから、11月24日の江戸開府400年に平安古の大名行列が参加した様子を紹介。

新しい事務局は楊井正憲さん045-508-4161(ブルーエクスプレス)



多田耕弥 (千葉県佐倉市 萩市見島出身)

会員からのお便り 「外から見た故郷・萩」

めーるぼっくす

です。「萩」へのイメージは人さまざまですが、いつも他府県の人達の観光地「長州・萩」への憧れ?の強さを思い知らされます。私は相手と話がはずむと、必ず話の糸口を作って、萩出身であることを打ち明けます。その時の相手の反応を楽しみにする悪いクセ?があります。

2年前、40数年ぶりに萩に帰りました。なをにおいて、母校の明倫小学校を訪ねたかった。丁度、運動会の練習中だったので、昼休みになるまで運動場の隅で待たせて貰った。なんと、私の前を通る赤・白の帽子をかぶった子供達が次々と「こんにちは!」「こんにちは!」と挨拶をしてくれるではないですか。後日、このことを会う人、会う人に話しました。そのほとんどが「萩は観光地だから、そのようにしつけられているんだよ」という意味の答えでした。

そんな話を聞いて、「そうなんだ、萩は観光地だったのだ」と思うことがしばしばでした。子供の頃、萩の町全体を我が庭のように1日中遊び回っていた私には観光地という言葉がピンとこないの

驚いたことに、すぐお隣の年配のご夫婦は、新婚旅行は萩だったとか。旅館の名前まで覚えておられました。その時の萩での思い出を長々と聞かされましたが、やはり最後に、もう一度行ってみたいですね、と言われていました。いずれにしても、想像以上に萩ファンは多いということです。もう一度、ゆつくりと落ち着いて観光したい、と思われている方が大半でした。いつまでも、この人達の夢を壊さない「萩」であって欲しいです。

私は、必ず、萩しーまーとや新博物館など「新しい萩」の紹介もしてあげることになっています。なにせ、萩の話を始めると、止どまることのない私なのです。外から萩を見て一番気になることは・・・商売?(PR)をもっと上手にして欲しいと思います。萩へ憧れている潜在的なファンを是非その気にさせて欲しいですね。



右から新事務局の楊井正憲さん、前事務局の守永雅さん

新たな関係をつくる第一歩に！

「萩と会津を語る会」開催

11月27日、萩本陣で「萩と会津を語る会」が開催されました。これは、福島県郡山市在住で作家の星亮一さんが、戊辰戦争（1868～69年）以来の「萩藩」と「会津藩」の遺恨を解消し、萩と会津若松両市の交流のきっかけを作ろうと企画されたものです。会場には友好の印として両藩の旗印が掲げられ、萩市内外から約170人もの参加者が集いました。

会では、最初に訪問団長の新井田さんとともに挨拶に立った野村



会津からの訪問団の皆さん

萩市長が「これまでも文化、スポーツなどで交流があったが、こうした意見交換は初めて。両者の新しい交流のきっかけになれば」と開催の意義を強調しました。

続いて行われた基調講演で、星亮一さんは「会津出身ながら萩藩の有力者の支援を受け、後に東京帝国大学総長などを務めた山川健次郎もいる。山川健次郎の研究を続けるうち、『戊辰戦争の怨念を乗り越えるべき』とした山川の持論を知り、関係修復の活動を思い立った。水に流すところは流し、新たな関係を築くべきだ」と強調し、幕末維新史研究家の一坂太郎さんは「吉田松陰は会津の土風をたたえ、高杉晋作が会津藩と交流していた記録もある。憎しみ合っていたばかりではない」と話されました。また、「お互いの歴史観を学びあうことが大切」とする菅家一郎会津若松市長のメッセージも披露されました。



星亮一著「山川健次郎伝」

（平凡社 1800円＋税）

萩には全国に誇れる離島があります！

東京で離島振興50周年記念式典

平成15年12月4日、千代田区で全国離島振興協議会が開催され、見島ウシ保存会（会長多田一馬）が離島固有の文化財である天然記念物見島ウシの長年にわたる保護増殖活動に対する功績を称えられ、国土交通大臣表彰を受賞。また野村萩市長が会長表彰を受けました。

表彰式の後、日本を代表するノンフィクション作家佐野眞一氏が「覚醒せよ、日本と日本人―宮本常一の精神を導き系に―」と題した記念講演を行いました。この中で、氏の敬愛する山口県東和町出身の民俗学者故宮本常一先生の離島調査のエピソードを通して、見島の「共同一致の歌」

を紹介されました。

「共同一致の歌」とは、明治初期に見島を襲った度重なる早魃や水害の被害により生じた多額の負債を、実に27年間かけて島民一団となって苦難克服し現在の貨幣価値にして約52億円を完済したことを記念した歌です。佐野さんは、現在も見島の子供たちが運動会等でこの歌を歌い継ぎ、苦難克服の歴史に誇りを持っていることを強調され、これからの地域振興に当たっては、住民がその郷土に誇りを持っていることが不可欠と



見島では、長男が生まれた家が、その誕生を祝い、また健やかな成長を願って大凧「鬼ヨーズ」を作り、元旦に掲げる風習があります。

（写真は平成15年12月 中家勲さん宅）

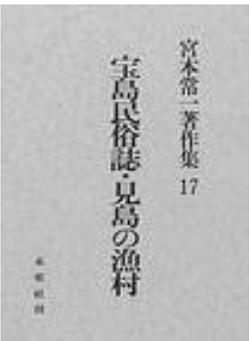
の見解を示されました。これらのことは、「宮本常一が見た日本」に詳しく紹介されています。

講演会に引き続き行われたパネルディスカッションには、野村萩市長がパネラーとして参加し、萩の大島を「日本一元気な島」とアピールするとともに、これからの離島振興についての意見を述べられました。



見島の「共同一致の歌」を紹介している佐野眞一著「宮本常一が見た日本」

（NHK出版 1700円＋税）



宮本常一著作集第17巻「宝島民俗誌・見島の漁村」

（未来社 3200円＋税）

新春のスポーツ、萩にエールを

箱根駅伝 法政キャプテン長嶺君(萩高OB)

長嶺貴裕(法政大経済4年、阿武町出身、萩高卒)が第80回箱根駅伝(1月2日、3日)に昨年に続き、出場します。昨年11月に箱根で行われた予選会では、個人で4位に入り、チーム初の予選会1位通過に貢献しました。

昨年(2017年)は各校のエースが集う華の2区に出場。最終学年となる今年(2018年)はチームのキャプテンとして、エースとして昨年を上回る活躍が期待されます。

箱根駅伝は1月2日、3日と日本テレビ系列で生中継されます。

高校ラグビー 萩工業2年連続花園出場

萩工業高校ラグビー部が全国高校ラグビーフットボール大会県予選決勝(11月)で大津高校を破り、花園ラグビー場(東大阪市)で行われる全国高校ラグビーフットボール大会に出場します。今回は昨年に続き9回目の出場となります。

全国大会前の12月17日に萩市民館で萩工業ラグビー部の壮行式が行われました。田村耕太郎監督は「昨年を上回る成績を残したい。目標は2回戦を突破してベスト16に残り、正月を花園で迎えたい」と大会に向けての決意を語りました。

激励を受けた萩工業ラグビー部は全国大会1回戦(12月28日)の石川県代表・鶴来高校戦勝利(2回戦は12月30日)の思いを新たにしました。



県大会決勝(対大津高校戦、11月16日)

3代続いで角界入り

萩高・宮本君が大相撲九重部屋に入門

宮本勝昭くん(萩市江向)が大相撲に入門することが決まり、九重親方(元横綱・千代の富士)が九州場所終了後の11月26日、萩高校へ挨拶に訪れました。

宮本君の父・豊さんは元幕下・時潮、祖父・丈夫さんも元十両・潮登(戦前)で、3世代にわたる角界入り。豊さんが現役時代、九重親方と稽古をしたり、肩の脱臼を治したりしたことが縁で現在も親交があることから、9月に同部屋を訪れ、親方とも会って正式に入門を決めた。



中央が宮本勝昭くん、左は九重親方、右は父親の豊さん

宮本君は身長185cm、体重95kg。中学から柔道をはじめ、萩高でも柔道部に所属。昨夏高校総体(長崎県)では個人100kg級に出場。左からの大外刈りが得意。関東や九州の大学からのスポーツ推薦の話もあったが、「サラリーマン等ではなく、力士になって勝負していくことに決めた。相撲が格闘技の中で一番強いと思ってるので、あきらめずにひたすら強くなることを目指して頑張りたい。千代大海のような突き押しで勝負する力士を目指したい」と決意を述べた。

九重親方は「父・豊さんから相談を受け、肩の脱臼を治してもらったことへの恩返しのため入門を引き受けた。本人のやりたい、強くなりたいという気持ちを尊重した。相撲の世界は厳しい。どこまで上がれるかは本人の努力次第」と話した。父・豊さんは「相撲界はきびしく未知の世界ではあるが、九重親方の言うことを聞いてけがのないように頑張ってもらいたい」と励ました。

3月の高校卒業後に入門予定。同日夕方には市民有志の激励会も開催され、宮本君の前途を祝福しました。

外食産業モデル店に指定、常茂恵



山口県内で生産された農産物を食材として、季節感を大切にした地産地消料理を提供する「外食産業モデル店」に、「萩の宿 常茂恵」(萩市土原弘法寺)が県内通算4店目、宿泊施設では初めて指定され、新メニュー「常茂恵御膳」を始めました。

新メニュー(萩)は、食前酒の地酒(田万川町)に始まり、萩沖のタイ、イカの刺身、海老(萩沖)、地鶏(長門市)、小松菜(むつみ村)、かぼちゃ(三隅町)、こんにやく(萩市)等を煮込んだ煮物「巴食載」、ごはんは県産コシヒカリ、デザートは柿(萩市)、梨(秋芳町)まで、旬の魚貝類や野菜を使った11品。5000円(要予約)で提供されます。

申し込み先 萩の宿 常茂恵 (08380220150)へ
※常茂恵が作った「地産地消」の弁当「常茂恵弁当」が都心のデパートで販売されます。詳しくは情報アラカルト(14ページ)参照。



道の駅「萩しーまーと」

事務局次長

篠原 充氏

(40歳 阿武町)

宇部市出身で平成14年10月に広島からターンの道の駅萩しーまーとの事務局次長として着任。萩産のマフグをはじめ、萩の海が持つ真の実力を全国にアピールすべく、現在奮闘中。

釣りとおロック

出身は、山口県宇部市。高校卒業後から、九州で1年の予備校と、5年間の大学生活を送りました。家業の関係で、広島のアパレル会社に勤務。21年ぶりに山口県へ。ターンの近い形で、萩しーまーとに着任しました。趣味は、釣りとおロック。現在音楽家として活躍



▲道の駅・萩しーまーと館内で

ひとつは、16年前に亡くした父の影響です。私が小学生の頃、宇部の海は、「缶コーヒー」のような色で、油が浮き、不快な匂いがしていました。しかし、無類の釣り好きであった父は、毎週、日曜日になると、私を連れ出し、長門や萩に釣りに出かけました。そのときに感動した北浦の青く透き通った「底が見える海」。

広島に就職してからも、月に1回程度は、仲間と遊魚船を仕立て、見島周辺に大物を狙って、ルアーフィッシングを楽しんでいます。

萩に来た理由は2つ

中の陣内大蔵氏は、高校の2年後輩。一緒にバンド活動をしていた時期もありました。また、ルアーフィッシングはまさにライフワーク。飛行機を乗り継いで秘境へも出かけました。

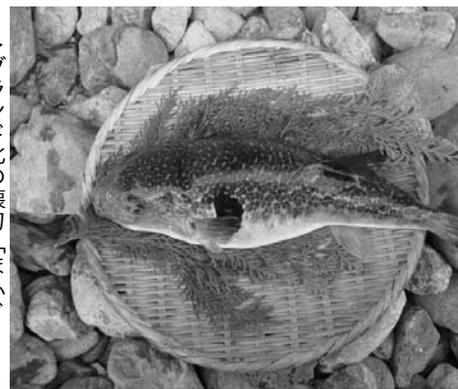
真のふぐ「まふぐ」をプロデュース

ひとつは、16年前に亡くした父の影響です。私が小学生の頃、宇部の海は、「缶コーヒー」のような色で、油が浮き、不快な匂いがしていました。しかし、無類の釣り好きであった父は、毎週、日曜日になると、私を連れ出し、長門や萩に釣りに出かけました。そのときに感動した北浦の青く透き通った「底が見える海」。

萩の海の実力は、まさに全国でもトップクラス。魚種の豊富さ、魚の質、そして、市場性の高い魚が揚がります。日本食文化での、魚介類のスパイスは3つ。①クロマグロ、②フグ、③エビ・カニです。クロマグロは、萩沖見島周辺で、数百キロの近海天然物が揚がりますが、東北、北海道、あ

るいは太平洋側に比べ、漁獲量が少なく、安定供給できません。今、私がプロデュースを考えているのが、フグです。

萩はフグ漁の歴史が古く、萩市越ヶ浜漁港は、現在でも県内最大のフグはえ縄基地。トラフグを筆頭に、シロサバフグ、マフグを日本海で漁獲しています。もちろん100%天然物。中でもマフグは、極めてポテンシャルが高いにもかかわらず、トラフグの陰で過小評価され、お値段はトラフグの10分の1以下。これを3年計画で、消費者が認めるブランド魚として、「道の駅・萩しーまーと」という、消費者に最も近い販売・PRチャネルを通じて、正当評価していただくことが、私のこれからの目標です。食の集客フックは半端ではありません(談)



▶ブランド化の懐刀「まふぐ」

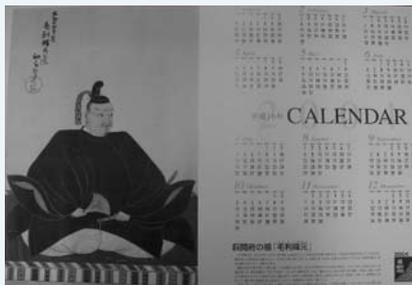
◆プロフィール

1963年山口県宇部市生まれ。宇部高校、長崎大学水産学部卒業。広島市内のアパレル会社で、15年勤務。2002年10月から、萩しーまーと事務局着任。阿武町在住。

広島に、妻を残して、単身赴任。NHK山口放送局「とくもり情報ランチ」で、レギュラー出演中。

萩信用金庫カレンダー

今年(2023年)は萩開府の祖毛利輝元



萩信用金庫(0838・22・3111)のカレンダーでは、毎年、県立萩美術館・浦上記念館、萩市郷土博物館所蔵の有名な作品を紹介しています。

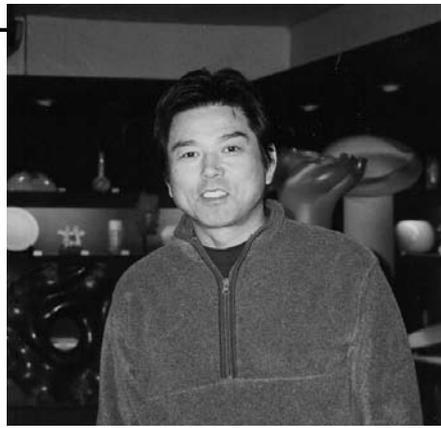
今年(2023年)は萩開府400年にちなんで、萩開府の祖「毛利輝元」の肖像です。「大正の広重」といわれた画家、吉田初三郎の作品で萩市郷土博物館の所蔵品です。

新博物館開館記念特別展「毛利輝元と萩開府」

とき 11月11日~12月10日
ところ 萩博物館(堀内)

原点に立ち戻り、萩の陶芸にもっと貢献していく

平成15年度 山口県文化功労賞(美術・陶芸)を受賞された、金子信彦氏(52歳 堀内)にお聞きしました。



萩焼の普及、地域の陶芸振興にとつて、なくてはならない人となっています。

今、金子さんの気になる事は後継者の育成。「今年の『萩陶芸大リーグ』では、受講者から、強烈で純粋な焼き物に対する思いを投げつけられたようでした。なんらかの形で、萩の振興につながってくれるんじゃないかという手応えを感じました」

陶芸大リーグと自身の個展の時期が重なり「へとへとです」という金子さんですが、萩焼にかける情熱を語るその姿には、疲れを感じることはありませんでした。

「受賞の話を聞かされたとき、自分はそれだけの事をしてきたのかな。これに奢らず、原点に立ち戻り、今後の萩の陶芸にもっと貢献していかなければと思います」と受賞の感想を語る金子さん。県を代表する現代陶芸家の一人として、エネルギーシユな作品で、多くの賞賛を得ている金子さんにも、長い葛藤の時代があったと言います。「師匠のいない自分が、世間に認めてもらえる作品を生み出すのに20年かかりました」萩焼の世界に、新興窯という新風を起こし、老舗・新興の壁を越えた交流を実現させた金子さん。今では



▲陶芸大リーグで指導を行う金子さん

日本陶磁協会

萩支部発足



11月28日、サンライフ萩で日本陶磁協会萩支部(支部会長 小野公久)の発会式が行われました。

東京に本部を置く日本陶磁協会は、50年以上続く月刊誌「陶説」の発行を通じて、会員に陶磁器に関する情報提供や、展覧会の批評等の活動をしています。

今まで、山口県には支部がなく、萩支部の発足により、会員同士のつながりが強化されることとなります。現在、萩支部の会員は、県内各地の陶芸家や愛好家の52名。今後は、東京本部とのネットワークを使い、情報の発信・収集を行います。また、講師を招いて勉強会の予定もあるそうです。

萩支部では、会員を募集しています。
問い合わせ 事務局 〒758-0072 萩市 呉服町1-3 ぎやらりい彩陶庵(0838・25・3110) 白田まで

■略歴

1951年 萩市生まれ
1967年 萩焼修業に入る(萩城山窯入社)
1979年 陶芸作家としての活動を開始。陶芸家として現在に至る(萩城山窯 取締役陶芸部長)
萩陶芸家協会常任理事
■陶歴
2000年 第3回益子陶芸展グランプリ受賞 萩焼
400年記念バリ展出品
2002年 萩選抜展(三越本店)

山口県立萩美術館・浦上記念館だより 原始土器の美展

平成16年2月1日まで

本展覧会では、山東省博物館と山東省文物考古研究所が所蔵する大汶口遺跡の紅陶灰陶、黒陶、白陶、彩陶、といった土器106点を通して、中国文明揺籃期の製陶技術と造形力を紹介します。

開館時間 午前9時〜午後5時休館日 月曜日

入場料 一般700円、学生500円

【展示室1】

浮世絵展示「蔦屋重三郎と西村屋与七」

とき 1月3日〜2月1日

浮世絵展示「幕末明治を生きた浮世



▲白陶罏

世絵師シリーズ②豊原国周
とき 2月3日〜29日

【展示室2】

東洋陶磁展示「朝鮮陶磁の展開」
とき 3月28日まで

問い合わせ 山口県立萩美術館・浦上記念館(0838・24・2400)

■年末年始は12月24日〜1月2日まで休館です

情報アラカルト

東北地区

■坂高麗左衛門「新春特別展」

萩焼作家・坂高麗左衛門の作品が展示されます。

とき 1月6日(火)まで

ところ 石川県金沢市 大和香林坊店

関東地区

■三輪寿雪「白心展」

陶芸界では現役最高齢の人間国宝三輪寿雪の作品が展示されます。昨春、11代休雪を改めて初の個展。茶碗を主に水差しや花入れ、書など、新作27点が紹介されます。「鬼秋花冠高台茶碗」は、従来の割高台の中心を削り残し、花を思わせる高台を創作した。茶碗の口も広がり、力強い作品。

とき 1月12日(月)まで

ところ 東京都中央区 日本橋三越本店

■守繁栄徹「陶想展」

萩焼作家・守繁栄徹の作品が展示されます。

とき 2月24日(火)～3月1日(月)

ところ 東京都新宿区 新宿三越

■岡田裕「八代就任記念展」

萩焼作家・岡田裕の作品が展示

されます。

とき 2月24日(火)～3月1日(月)

ところ 埼玉県川口市 川口そごう

■「常茂恵弁当」販売

特別企画催事「発見・日本の味(仮称)」において、地元海の幸、山の幸を満載したお弁当が都心デパートで販売されます。会場では「萩の宿 常茂恵」の女将が実演販売を行います。

●1月14日(水)～19日(月)

東京都豊島区 そごう横浜店

●1月21日(水)～27日(火)

埼玉県横浜市 西武池袋店

価格 2000円

※「家庭画報」2月号で「常茂恵弁当」が紹介されます。

山口県関係

■山口県立美術館の常設展

●萩の茶陶

とき 1月12日(月)まで

ところ 山口市亀山町 山口県立美術館

■香月美術館創立10周年記念・香月画伯没後30年「世界の巨匠のおもちゃ展」

アーティストたちが家族、子どものために、作り上げた愛らしい

作品を展示します。ピカソ、クレーゼンなど作家11人、120点。

とき 1月25日(日)～3月28日(日)

ところ 大津郡三隅町 香月美術館

萩市関係

■彩陶庵の企画展

●三輪和彦個展「KAKAN」

萩焼作家 三輪和彦の作品が展示されます。

「花冠」。大地をめぐり獲ったよ

うな豪快な造形は、一輪の花を大地の一片にという三輪和彦さんの意を受けて、凛とそびえ立ちます。

萩の地で、花冠はそこに「在る」時間と空間を確かなものとして語りかけてくれます。

とき 1月23日(金)～29日(木)

ところ 萩市呉服町 ぎやらりい

彩陶庵(0838・253110)



■萩焼窯元ネットショップ「大桂庵」オープン

萩焼作家 樋口大桂の作品を

第50回日本伝統工芸展

萩焼作家・岡田裕、波多野善蔵、波多野英生、松尾操風、兼田桂炎の作品が展示されます。

●高松展

1月5日(月)～1月18日(日)
香川県文化会館

●広島展

1月21日(水)～2月8日(日)
広島県立美術館

●福岡展

2月11日(祝)～2月16日(月)
福岡天神岩田屋

●仙台展

2月24日(火)～2月29日(日)
三越仙台店

紹介するサイトがオープンしました。普段使いの器から、ギフト、特別注文などあらゆるニーズに対応したネット販売も受け付けています。

URL <http://www.takieian.net>

●花遊

萩の草花を題材にした押し花絵

(風景画11点)を展示します。

とき 1月23日(金)まで

ところ 青木周弼旧宅(南古萩町)

■萩人形展 夢遊びく和の世界

萩の自然と文化をテーマに生まれた高さ10cmの日本人形。萩民謡「男なら」「嫁泣節」や「萩娘」「夏みかん娘」「椿娘」など約250点を展示します。

とき 1月31日(土)まで

ところ 伊藤博文別邸(椎原)

出版情報

■「家庭画報」2月号(12月28日発売)

全国の老舗の紹介の中で、山陰の味を詰めた有名旅館のお弁当として、「萩の宿 常茂恵」の地場の食材を使った「常茂恵弁当」が紹介されます。

定価 1000円

■旧幕府 戸川残花編

明治の詩人・評論家戸川残花の

3月県内、5月全国公開 映画「ほたるの星」

東京国際映画祭コンペティションに出品された、菅原浩志監督の最新作「ほたるの星」が2004年春山口県内で先行上映後、5月に全国公開されます。

萩市の明倫小学校もロケ地として撮影されたこの作品は、監督がオリジナル脚本を兼ねて映画化したハートウォーミングストーリー。



内容 山口県内の豊かな自然を背景に、新任教師と生徒との交流を蛍の飼育を通して描く。
出演者 小澤征悦、役所広司、樹木希林
主題歌 松浦亜弥

- 編集により、明治30年から約3年間にわたり刊行された旧幕臣の雑誌で、幕末維新研究の資料誌。全5巻。
- 出版 マツノ書店
- 藩から読む幕末維新 武光誠著 薩摩、長州・各藩の特質と主要人物の解説を通じて、維新の根本原因に迫る。
- 203ページ。
- 定価 660円(税別)
- 出版 PHP 研究書
- 乃木將軍の御生涯とその精神 小堀一郎 乃木將軍が神上って90年を記念した講演会の記録。
- 78ページ。
- 定価 1000円(税別)
- 出版 国書刊行会
- 中央公論 2004年新年号 2004年に認知されそうなキーワードをあげた特集「2004

年のキーワードはこれだ」で、山本博文(東京大学資料編纂所教授)による「萩開府400年」が紹介。「幕藩体制」から現代の地方自治を考える。発売中。

368ページ。

定価 800円(税込)

出版 中央公論社

何のための派遣か
首相は国民に説明をつくせ
著者 大野 健二 出版 中央公論社

2004年のキーワードはこれだ
住民・九州新幹線
経団連40年・福岡・東土山開火・地域連携
アクトアップ・相模、ドクワ、プログ、マスロ、日本郵政、朝日新聞、東武東横線

小倉昌男さんに聞く 必勝経営学

定価 1699円(税別)
出版 株山と溪谷社

テレビ・映画情報

■ 「嘘う伊右衛門」全国東宝洋画系にてロードショー

昨年7月に萩市堀内の鍵曲で撮影が行われた「嘘う伊右衛門」が2月7日より全国東宝洋画系にて公開されます。

監督 蛭川幸雄

出演者 唐沢寿明、小雪ほか

内容 生真面目で笑うことのない浪人の伊右衛門と、凛とした性格と美しさが評判だったが病のため顔の片側が崩れてしまったお若との恋愛、二人を取り巻く人間たちの愛憎や狂気を交えて描く究極の恋愛映画。

■ 「趣味悠々」NHK教育テレビ

萩ガラス工房(萩市越ヶ浜)から萩ガラスが紹介されます。

とき 1月19日(月)午後10時～10時25分、1月26日(月)午後0時30分～午後0時55分(再放送)

■ 「朝だ！生です旅サラダ」朝

日放送系列全国放送
毎回ゲストが全国各地の旅情報を伝える番組。ゲストの首無美紀子さんが明神池ほか萩市での旅を紹介しします。

放送予定日 1月10日(土)午前8時～9時30分

あなたの力を萩で発揮してみませんか 2月小児科新設に伴い 萩市民病院職員を全国公募!

萩市民病院(平成12年開設)は、内科・神経内科・呼吸器科・消化器科・循環器科・外科・整形外科・放射線科に加え、2月に小児科を新設します。

萩地域で唯一の病院小児科として、地域の医療機関からの「紹介予約制」による外来診療を中心に、病棟に個室3室を確保し、緊急入院にも対応します。平成16年度には小児専用病床の増築工事等を計画しており、人員体制を含めて機能を強化していく方針です。

これに伴い、有能な人材を広く募集します。あなたの力を萩で発揮してみませんか。

募集職種 看護師、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師

採用人員 いずれの職種も若干名
募集期間 平成16年1月20日まで
提出書類

①受験申込書・受験票(萩市総務課人事係備え付け)

②最終学校卒業証明書(又は見込証明書)

③最終学校成績証明書

④試験区分ごとの免許を有する者は当該免許証の写し

提出先 〒758-8555 萩市総務課人事係
試験日時 平成16年2月8日(日)

試験場所 萩市役所

採用予定日 平成16年4月1日

(免許取得見込者にあつては、国家試験合格後)

その他 試験区分ごとの受験資格・試験内容 その他詳細

については、萩市総務課人事係(0838-25-1230)に

お問い合わせいただくか、市のホームページ(<http://www.city.hagi.yamaguchi.jp/hagcity/>)で確認ください。

新博物館建設地、

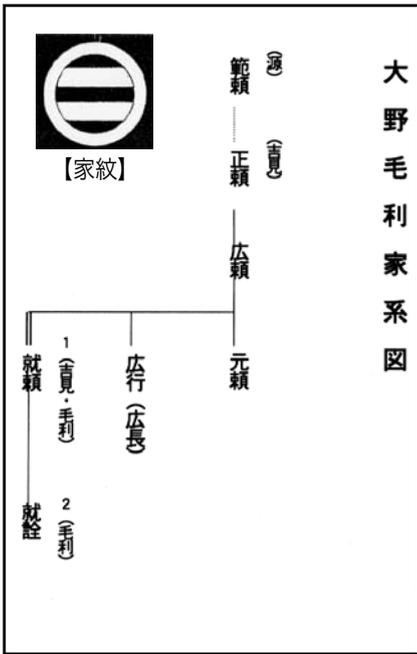
大野毛利家と屋敷地の変遷(2)

大野毛利家の成立

大野毛利家は、萩藩主毛利家の一門にあたり、石見国津和野三本松城（現在、島根県津和野町）を本拠としていた国人領主、吉見正頼の系譜にたります。吉見正頼と萩とのかわりには、正頼が隠居して嫡子広頼に家督を譲り、萩の指月山の麓に居館を築いたことから始まります。居館が築かれた年代は明らかではありませんが、大分県中津市に伝えられる正頼の銘文が記された琵琶によりすると、天正8年（1580）にはすでに萩に居住していたことがわかります。この琵琶には、「天正8年7月19日に長門国萩浦の指月城下において琵琶を作った」と記されており、関ヶ原の戦いのうち毛利氏が萩城を築き、城下町を建設する以前、萩はすでに指月の吉見氏の居館を中心に城下町が形づくられていたことが推測されます。正頼は天正16年閏5月22日、指月の居館で没し、指月山下の善福寺に葬られました。

正頼の嫡子広頼は、毛利隆元（毛利元就の長男）の娘を妻としました。彼女は、萩城を築いた毛利輝元の姉にあたります。広頼の長男元頼は、吉川元春（毛利元就の二男）の娘を妻としました。このころから、吉見氏は毛利氏と姻戚関係を

大野毛利家系図



大野毛利家家系図

結ぶこととなります。豊臣秀吉による朝鮮侵略戦争、文禄・慶長の役が勃発しますと、広頼は病弱でしたので、長男元頼が父に代わって輝元に従い出征しましたが、文禄3年（1594）6月4日、弱冠20才で戦死しました。同年、元頼に随従して朝鮮に渡った家臣下瀬頼直が記した従軍日記（「朝鮮陣留書」）によりますと、元頼は吉見氏の本拠津和野をたつて、途中、萩の指月に立ち寄りついでいます。正頼が没したあとも、指月の地には吉見氏の居館が存続していたことがわかります。

慶長2年（1597）吉見広頼は隠居し、二男の広行（のち、広長）に家督を相続しました。ついで慶長5年、関ヶ原の戦いに西軍が敗れますと、これに属した毛利輝元は中国地方8か国112万石から周防・長門2か国36万9000石に領地を削減されました。このとき、広行は阿武（現在の萩市・阿武郡辺り）・厚東（現在の宇部市・小野田市・楠町辺り）両郡に1万1390石余の地を与えられ、津和野三本松城を引き払って萩へ移りました。しかし、毛利氏が防長両国の居館を萩に選定し、吉見氏の居館があった指月に築城することになりましたので、広頼は隠居領1139石余をもらって、大井の串山（現在、萩市大井）に隠棲しました。つまり、毛利氏は城と城下町の建設にあたり、吉見氏を萩から追い出す形になったのです。

このような毛利氏の吉見氏に対する処遇に不満を抱いた、吉見広行は慶長9年12月15日、萩を出奔しました。毛利輝元が萩城に入城した、1か月余りのこのことでした。広行の出奔によって吉見家は断絶しましたが、輝元の意向によって慶長17年12月13日、吉見家は再興されることになりました。すなわち、周防国岩国に領地をもっていた、吉川広家（吉川元春の三男）の二男彦次郎（実は4男）に吉見広頼の娘を娶らせ吉見政春と称することになりました。政春は義父広頼の隠居領を相続するとともに、実父広家の隠居領であった通津（現在、岩国市通津）4500石のほか500石を加えて5000石の地を吉川家から譲与されました。彦次郎を養子として吉見氏を

継がせるにあたり、広家は大切にしていた短刀（銘正宗、鎌倉時代作）をもたせています。その短刀は明治になって大野毛利家から吉川家に返却され、現在、吉川史料館に所蔵されています。一方、広頼は吉見家再興の半年余りのちの翌慶長18年6月20日、隠棲の地大井で没しました。

その後、寛永14年（1637）3月20日、政春は初代萩藩主毛利秀就から2000石を加増され、秀就から毛利の名字と偏諱を賜い（自分の名の一字を与えること）、毛利就頼と称しました。ここに大野毛利家は、藩主毛利家の一門に列せられることになったのです。熊毛郡大野村（現在、熊毛郡平生町）を中心に領地をもっていましたので、大野毛利家と呼びました。大野毛利家の石高は、幕末期には8618石余でした。

なお、慶長9年に出奔した吉見広行は、仕官を求めて諸国を流浪したのち、元和3年（1617）萩に帰りましたが、翌元和4年8月25日、叔父にあたる毛利輝元によって誅伐されました。

このように、大野毛利家は吉見氏の系譜を引く家系であるとともに、吉川家とも深い関係をもっていました。大野毛利家の2代当主就詮は、「岩国の吉川家を本家と思ひ、疎略にするな」と遺言しています。また、大野毛利家は、吉見家の家紋「丸の内に二つ引き」を用いています。このたび、萩博物館建設地の南東隅に復元されたすみ隅やぐら矢倉の鬼瓦には、「丸の内に二つ引き」の家紋が入っています。

萩市郷土博物館 樋口尚樹

Topics

萩ネットワーク 会員の皆さまへ

- 有限責任中間法人「萩ものがたり」の設立に対し、萩ネットワーク協会から50万円を出資金（基金）として拠出します。（平成15年8月28日萩ネットワーク協会理事会において承諾されました。）
 - 平成16年度（5月発行分）から、会費の銀行口座からの自動引き落としを始めます。【取扱金融機関】山口銀行・萩信用金庫
- 現在の1年ごとの郵便振込による会費納入に比べ便利になります。